

令和5年度

33th

# 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

## 入賞作品

主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会  
(栗原市、登米市、(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)  
後援 宮城県、(一社)栗原市観光物産協会、(一社)登米市観光物産協会、  
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、  
河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、  
毎日新聞仙台支局  
協賛 宮城県写真商業組合

# 入 賞 者

各 賞	題	氏 名	住 所
<b>最優秀賞</b> (宮 城 県 知 事 賞)	空より高く天まであがれ	大日向 圭 一	千葉県船橋市
<b>優 秀 賞</b> (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	飛べ大空へ、感動の群翔	高 田 毅	福島県南相馬市
<b>金 賞</b> (栗 原 市 長 賞)	ふれあい	藤 江 健 一	岩手県一関市
<b>金 賞</b> (登 米 市 長 賞)	水を蹴って	鈴 木 一 広	宮城県仙台市
<b>銀 賞</b> (栗原市観光物産協会会長賞)	旭 雪(あさひゆき)	大 金 由 夫	大崎市古川
<b>銀 賞</b> (登米市観光物産協会会長賞)	たべちゃうぞ！	佐 藤 直 樹	登米市迫町
<b>銀 賞</b> (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	日の出の絶景	伊 藤 利喜雄	岩手県一関市
<b>銅 賞</b> (河北新報社賞)	Gold Carpet	高 橋 明 男	登米市豊里町
<b>銅 賞</b> (読売新聞東北総局長賞)	今年も会えたね！	高 橋 達 也	東松島市牛網
<b>銅 賞</b> (朝日新聞仙台総局長賞)	白鳥歌劇団！	山 辺 浩 美	仙台市宮城野区
<b>銅 賞</b> (毎日新聞仙台支局長賞)	朝霧の彼方から	遠 藤 宏 昭	仙台市青葉区
<b>入 選</b>	野性のまなざし	阿 部 健 司	石巻市あゆみ野
<b>入 選</b>	浪漫飛行	日 野 俊 文	宮城郡七ヶ浜町
<b>入 選</b>	感動に詰まる重羽音	鈴 木 由 香	福島県南相馬市
<b>入 選</b>	霧中の飛びだち	千 葉 学	大崎市古川
<b>入 選</b>	大空の共演	青 田 真	宮城郡利府町
<b>入 選</b>	朝日を浴びて	小 山 浩 吉	登米市迫町
<b>入 選</b>	冬暁の飛翔	佐々木 朋 子	石巻市桃生町
<b>入 選</b>	星降る夜のひと時	松 村 俊 幸	福井県勝山市
<b>入 選</b>	月からの使者	渡 辺 武 浩	登米市登米町

## 総 評

今回もたくさん方々のご応募ありがとうございます。素晴らしい作品が多くとても悩まされる審査でした。今回の最優秀賞、優秀賞ともにマガンの一斉の飛び立ちの作品でした。過去に見たことのないものすごい数が捉えられていました。マガンの一斉の飛びたちは、本当に素晴らしいと言われるのは1シーズンに何日かしかない様ですが、応募作品から令和5年は10月31日や11月3日などがその良い日だった様です。素晴らしい場面に出合ったことを想定し、どう切り取るかなど、イメージトレーニングをして準備をしておくことも大事なかなと思います。また、他の入賞や入選作品ではハクチョウやスナップなどの作品もレベルアップしていると感じました。シャープな描写に比べ、構図が良いものが多くなっていると思いました。

今後の伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストですが、最近流行りの生成AIや合成に負けない自然本来の素晴らしさによる力強い作品を期待しております。

### フォトコンテスト審査員 井 村 淳 (いむら じゅん)



1971年生まれ。横浜市在住。  
日本写真芸術専門学校卒業。  
竹内敏信氏の助手を経てフリーになる。  
サバンナの動物を中心に世界の野生動物や日本の自然など「野生」を求めて活動。  
(社)日本写真家協会会員。チーター保護基金  
ジャパン名誉会員。キヤノンEOS学園講師  
など。

著書『大地の鼓動』  
『あざらしたまご』他。

ホームページ  
(J's WORLD Nature Photographer  
Jun Imura's website)





**最優秀賞  
(宮城県知事賞)  
「空より高く  
天まであがれ」**

**大日向圭一**

【評】目を疑うほどのものすごい数のマガンの飛び立ちです。これだけの数が一斉に飛び立った場面は、生ではもちろん写真でも見た記憶がありません。気象の条件も最高と言えるような、うっすらと上がった霧が細かい人工物を隠してくれ、幻想的な場面になっています。また、昇り始めの太陽が強すぎない光線です。一瞬「合成かも?」という疑念を抱いたのも正直なことで、それほど驚きの場面です。縦位置構図でマガンたちがこちらに迫ってくる迫力も良かったです。

**金賞 (栗原市長賞)  
「ふれあい」**

**藤江 健一**

【評】内沼に集まるカモ類の群れとハクチョウを見物する親子のスナップ写真ですが、逆光の夕日がドラマチックに捉えられています。水面の反射からこちらに差し込んでくる光をカモ類の群れの影を利用して放射状に見せたのが視覚的にとても強い効果になっています。また、空を少しだけにして前景を広く入れたことでより広がりを感じるととても良い構図です。





優秀賞（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞）「飛べ大空へ、感動の群翔」 高田 毅



【評】これだけ引き気味の画角で空を広くフレーミングしながらも、画面にびっしりと埋め尽くすマガンを捉えているのが素晴らしいです。ばらけ具合もちょうど良い感じで、今まで見てきた伊豆沼のマガンの飛び立ちの作品で一番美しいかもしれません。空のグラデーションは優しい色合いで、水面の反射の色も含めてとても美しいです。やや暗めで静かな情景の中にとつともないエネルギーを感じます。

金賞（登米市長賞）「水を蹴って」

鈴木 一広

【評】ハクチョウが飛び立つ時に水面を蹴って水飛沫をあげているところです。6羽が一斉に素早く走り出したところをやや後ろよりですが、ハクチョウにピントも合っています。ハクチョウの飛びたちのシーンだけならばそれほど珍しくないですが、この作品は前景に別のハクチョウのグループがバランスよく捉えられているのが素晴らしいです。



## 銀賞

(栗原市観光物産協会会長賞)

「旭 雪」

大金 由夫

【評】 雪が降る中、朝日が差し込んできたのですね。オレンジ色に染まり、とても美しく幻想的な場面です。画面中央付近に飛び上がったシルエットはハクチョウでしょうか。もし、このシルエットにピン트가合っていたらさらに高評価だったかもしれません。降雪中はピン트가合わせが難しいですね。



## 銀賞

(登米市観光物産協会会長賞)

「たべちゃうぞ！」

佐藤 直樹

【評】 口を開けて待ち構えているカワセミに向かってトンボが接近しているのでしょうか。トンボからは止まり木に見えているのか、果たしてこの後どうなったか、と想像を掻き立てられる作品で面白いです。とても惜しいのが露出がオーバーなところですね。もう少し暗めにプリントしたいです。



## 銀賞

(宮城県伊豆沼・内沼サクチュアリ友の会会長賞)

「日の出の絶景」

伊藤利喜雄

【評】 おそらく最優秀賞の作品とほぼ同じタイミングで撮影されたものかと思います。やはり、ものすごいマガンの数に息を吞みます。太陽の輪郭もしっかりとしていて露出設定も良いです。気になるのが、画面下の黒い地面の割合がやや多いことです。そして、日付がプリントされているのが残念。







銅賞  
(河北新報社賞)  
「Gold Carpet」  
高橋 明男

【評】 凍った湖面や岸に繋かれた舟に雪が積もり、静けさを感じる光景に朝日が差し、太陽からこちらに向かって伸びる光のラインが正に金の絨毯が敷かれた道になっています。その上空をカギ型に飛んでいくマガンのグループが構図としてバランスよく捉えられています。

銅賞 (読売新聞東北総局長賞)  
「今年も会えたね！」

高橋 達也



【評】 日が沈む瞬間の伊豆沼ですね。3羽のハクチョウが少年を見つめ、少年がリーダーでハクチョウを率いている様に見えます。子供と同じくらいの大きなハクチョウを、カメラを低く構えることで、空が背景になり大きさが強調され、飛行機雲も良いアクセントです。

銅賞 (朝日新聞仙台総局長賞)  
「白鳥歌劇団！」

山辺 浩美



【評】 目の前のハクチョウが大きな翼を広げて鳴き交わしているんですね。背景の描写などからかなりの至近距離に見えます。歌劇団の演目を観劇しているような迫力だったのでしょうか。左の2羽の足がシンクロしているのが面白いです。空に飛翔するシルエットも良いチャンスです。

銅賞 (毎日新聞仙台支局長賞)  
「朝霧の彼方から」

遠藤 宏昭



【評】 背景が見えないくらい朝霧が濃く出た様です。霧の中から少し昇った太陽が辺りを照らし、飛び上がったマガンが霧の中から出現している神秘的な光景だったのでしょうか。どう飛んでくるかわからないマガンの群れを画面下のヨシとバランス良く切り取った構図がお見事です。

入選 「野性のまなざし」

阿部 健司



【評】 餌食になったのはマガンでしょうか。野生の掟であり、日常です。とは言え、弱肉強食の捕食のシーンを撮影するのはなかなかの希少な場面です。しかも、近い距離で撮影されている様で、この鳥の息遣いが聞こえてきそうな迫力があります。

入選 「浪漫飛行」

日野 俊文



【評】 令和5年は天候でハスがかなりダメージを負った様ですが、その中でもたくさんの花が綺麗に咲くエリアを見つけて撮影されています。ハスの花園を2羽のアオサギが飛んできたシャッターチャンスを捉えています。きっとつがいなのですね。

## 入選「感動に詰まる重羽音」 鈴木 由香



【評】一斉の飛び立ちを望遠レンズで切り取り、太陽をある程度大きく見せることで、朝の雰囲気を感じさせています。霧越しで眩しくなく色がついた太陽が美しいです。明るさがどんどん変わる時間帯ですが、シャッターや露出の設定が良いです。

## 入選「霧中の飛びだち」 千葉 学



【評】まるで黄金に輝く朝日の風景の中にマガンの群れが入り、豪華で荘厳な光景になりました。水面から上がる霧も逆光に染まり幻想的に加わりました。強めの太陽は輪郭が飛んでしまいがちですが、丸く形が残る露出設定も的確です。

## 入選「大空の共演」 青田 真



【評】うっすらある雲や霧が、朝日に色づきグラデーションが綺麗です。水面も空が映り込み、オレンジ色に染まっています。手前の草やマガンの編隊飛行のシルエットが綺麗に浮かび上がっています。若干水平が曲がっているのが惜しいです。

## 入選「朝日を浴びて」 小山 浩吉



【評】飛んでいるマガンの密集度が凄すぎて絡まってしまいそう。太陽の存在をあえて水面の映り込みのみで表現したのも面白いです。なので、この場合、水面のマガン達にピントを合わせた方がより良かったかもしれません。

## 入選「冬暁の飛翔」 佐々木朋子



【評】ぱっと見のインパクトはやや落ち着いた雰囲気作品です。手前の群れが頭上に舞い、奥に別の群れが飛び交っています。霧に逆光の光を暗目の露出で見せたのがスタイリッシュです。画面下の黒い部分はこの半分くらいだとベター。

## 入選「星降る夜のひと時」 松村 俊幸



【評】長時間露光で捉えた伊豆沼の夜中の光景ですね。水面に眠るハクチョウがじっと動かない個体と少し動いてしまって透けている個体がいるのも面白いです。静まり返った沼と東寄りの空に昇る星の光跡が動きとして対比しているのも面白いです。

## 入選「月からの使者」 渡辺 武浩



【評】マガンの月并ですね。飛行機のシルエットの写真はよく見かけますが、どこを飛ぶかわからず、光らない鳥の月并は難しいですね。若干ピントが甘いのが惜しいですが良い写真です。基本的にシルエットになる被写体にピントが合っているのがベターです。